

# NPO☆Kyoken 通信

※インフォメーション通信が変わりました

た！

★特定非営利活動法人 教育研究所(不登校問題研究会事務局) 69号 平成17年3月4日発行

〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20 Tel.045-848-3761/fax045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: [contact@kyoken.org](mailto:contact@kyoken.org)

春一番が吹きました。寒かった今年の冬ですが、確実に春が近づいているようです。教育研究所でも、来年度に向け、様々な取組への準備が進められています。

4月から、NPO 法人としての活動が2年目に入ります。ますます、公共性のある、また当事者の側に立った、実のある活動をしていきたいと思えます。しかし、NPO 法人になってますます実感をしているのは、活動が公益的であり、非営利活動に限定されるのに、こうした活動を維持運営していくには、現実には資金が必要となることです。本当に困っている当事者の方の負担が増えてしまわないように、維持運営していく方法を模索していますが、難しい現実があります。

## 4月から“Common Room”

(コモンルーム)開設します。

※コモンルームには学校などの中にある、みんなの大切な居場所、安らぎの場という意味があります。

教研では、1972年より不登校・ひきこもりの子どもがもう一度社会参加へ踏み出していくために、カウンセリングやケースワークなどと平行して、平日の昼間、毎日通ってくる日常クラスを設け、運営して来ました。クラスの中では、子どもたちが、家庭生活だけでは難しい、けれども社会生活を始めるにあたって必要だと考えられる、学力(日常生活に必要な社会的常識を含む)の習得・体力づくり・生活リズムの修正・人間関係のスキルの習得・心の不安への対処ができるようになることなど、同世代交流をしながら、それぞれの課題を克服し、それぞれの社会参加の道へと旅立って行きました。

こうした活動が認められ、教研をモデル民間施設にして、平成4年の文部省が「適応指導教室、教育センター、児童相談所などの公的な機関などの公的機関に通うことも困難な場合や、本人や保護者の希望もあり、適切と判断されるときは民間の相談・指導施設も考慮されてよい。」という民間施設ガイドライン作成、発表。また、適応指導教室を設置する際にもモデル施設になっています。

しかし、近年、教研が行ってきた文部科学省からの委託研究や、横浜市教育委員会との共同研究

の中で“新しいタイプの不登校”の姿が見えてきました。これまでの不安が強い、心因性の不登校の子どもたちへの対応は30年以上の経験実績や研究の中でかなりの部分が解明でき、対応策などが見えてきました。しかし、長期化が懸念される、新しい、情緒的には安定でも不安定でもない、そのまま状態が固定し、安定してしまっている、“新しいタイプの不登校”は、親や現社会との価値観のズレから大きく起こってきている問題と考えられ、彼らへの対応のためには従来のクラスに新しい要素を加えた新たな居場所作りが必要になってきました。

そこで、新たに教研のクラスを Common Room(コモンルーム)という多様化した価値観に対応し、子どもの気持ちや思いをさらに重視した居場所を作ることになりました。

大人の方の特別講師としての参加も大歓迎です。

～コモンルームは知識の泉！～

教研のコモンルームは一人一人の、もう一つの居場所。家庭と学校や社会との中間にあります。ルームの中は自分の場所でも有るし、仲間との共有の場所でもあります。その中での過ごし方は一人一人違っていたり、一緒だったり、わきあいあいと過ごしています。

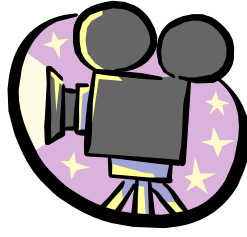
行きたい！ やりたい！ 好奇心大歓迎です！

◆ 知識の泉って？ ◆

お勉強の枠をはみ出して、色々面白そうなことについて、掘り下げて探っていこうという時間です。こ

の泉の時間に何をやるのかは、月ごとにお知らせします。こんなメニューをご用意しています。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
お勧めの映画を観てみるときも、その映画の背景を探ってみたり、俳優さんに焦点を当てて見たり、リメイクと見比べてみたり…。



“色んな見方があるんだなあ”って、新たな発見ができること間違いなし！<不定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
世界には 191 カ国(国連に加盟している国)以上の国があります。色んな言葉、色んな食事、色んな風習、色んな文化があって、それぞれが独自の形で生活をしています。それぞれに生活や歴史に基づく考え方、常識があり、似ていたり、全く違っていたりしています。

ニュースや情報番組では見えてこない事柄を、探っていく講座です。<不定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
“どっちの料理ショー”で作っていたものを(高級食材を使うのは無理だけど)作ってみたい!なんていう、あんなもの食べてみたい、こんなもの作ってみたい、を実現してみる時間です。アイスの天ぷら、ロコモコなど、メニューを決めるのは参加するあなたです。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
面白くなければ「理科」じゃないをキーワードに、とにかく日常の不思議なことをいろいろ実験してみます。うまく行くかどうかは参加してからの楽しみ!<定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
京都議定書とは「気候変動枠組条約第3回締結国会議(COP3)」で採択された、



二酸化炭素など 6 つの温室効果ガスの排出削減義務などを定める議定書のこと。2005 年 2 月 16 日、京都議定書が発効しました。地球も守るために皆で勉強しましょう。<不定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
会話術、論争術等、相手を論理的に説得する力は生きていくために、大きな武器になる。この力を皆で付けましょう。<不定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
テレビ・ラジオ・新聞・WEB ニュース等、話題に応じた内容をタイムリーに解説します。<不定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
歴史の勉強となると、どうしても「覚える」学習というイメージがあります。でも本来は「覚える」ものではなく「感じる」「触れる」「味わう」もののような気がします。何百年も前の木の柱に触ってみたり、昔の人が書いた文字を眺めてみたりしながら、その時代、そこでどんな人がどんなことを考えて何をしようとしたのか…そんなことを想像して、教科書に出てくる人をちょっと身近に感じてみたいと思います。<定期講座>

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
子ども達のリクエストに応じた形で発生する泉です。何をやるかはみんな次第。楽しみな時間です。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
ひきこもりの心理や神経症、自律神経症について楽しく学びます<不定期講座>

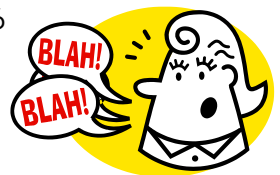
< Common Room Time Schedule >

	Mom	Tue	Wed	Thu	Fri
10:30~ 12:00	Free time (久玉)	英会話 (田村)	Roomは お休み Staff 研修	Free time (田村)	※知識の泉
12:00~ 13:00	Lunch			Lunch	
13:00~ 15:00	※知識の泉	※知識の泉		Sport	英会話 (田村)
15:00~ 15:30	Meeting	Meeting		Meeting	Meeting

Common Room 開設時間：水曜日以外の平日午前 10 時 30 分から午後 3 時 30 分まで  
(※学校のお休みの時はお休みです。)  
講座ごとの参加もできます。お問い合わせ下さい。

◆ その他の時間 ◆

○英会話 使える英語、話せる英語を身につけるには、やっぱり聞いたり、話したりする練習をしなければなりません。この時間はすっかりネイティブ(母国語が英語の人)のつもりで、やってみましょう。気分はネイティブけれど、講師はバリバリの日本人。安心して来てください。



◇ Sport 体を動かすことは楽しいことです。まして一人では出来ないようなスポーツと一緒にできると楽しさ倍増です。サッカー、バスケット、野球、



卓球、バドミントン、バレーボールなど。その時のメンバーに応じて種目を決めます。人数が多い方が楽しいので、少しでも興味がある人はぜひ来てくださーい！

### ○Free time

学習をしたい人、レポートをしたい人、資格試験の勉強をしたい人。それぞれの時間です。

各時間には担当の補助スタッフがつきます。

### ◆遠足◇

みんなで外に出て楽しむイベントとして、月に一度は遠足に出かけます。場所はみんなで考えて決めています。去年はこんなところに行きました。



三鷹の森-ジブリ美術館：観るものが大変多く、展示の中身も変わったりするので毎年好評のジブリ美術館。一生懸命に見すぎていつも帰りはへとへとになります。大変今年はオリジナル短編アニメーションが『めいとこねこバス』だったので、ラッキーでした。

秋葉原・アメ横・湯島天神東京巡り：それぞれの行きたい場所がバラバラで、何とか叶えられる方法はないかと、コースが設定されました。行ってみたら、どの場所も思いの外面白かったとの感想が多く、みんながお勧めの場所をそれなりに満喫した遠足となりました。

古都鎌倉巡り：覚園寺～瑞泉寺～小町通り～大仏～大仏坂切通しと結構ゆっくりじっくり、鎌倉を巡りました。特に覚園寺では、お寺の人に鎌倉時代の歴史的事件の背景、風習、その後の移り変わりなどをゆっくりとお話を聞きながら周れて、みんなで感動したのです。

#### <4月の知識の泉・予定表>

- 11(月) 映画を観て&語る会
- 12(火) 歴史がわかる！世界が見える！
- 15(金) おもしろ理科・数学入門
- 18(月) 国際理解講座
- 19(火) 歴史がわかる！世界が見える！
- 22(金) おもしろ理科・数学入門
- 25(月) ぐるめ会

### ◆旅行◇

見て、聞いて、感じて、色んなことを実体験する、



そんなことを目的に、年に何回かはみんなで旅行にいったりも

します。やはり、行き先はやはりみんなで決めます。昨年からは富山の温泉が湧き出る宿泊施設ができました。黒部渓谷の大自然を満喫できます。

5月には雄大なパノラマが見られるので、そちらに旅行に行きたいと考えています。

9月に海外スタディツアーを計画中です。実際に英語を使ってみるチャンスです。どんな発見があるのでしょうか。

### ☆スポーツ用品などご提供下さい☆

教研には今、オープンクラスに来ている中学生以上の子どもたちと、「地域の子どもの居場所」に来ている小学生の子どもたちとが通ってきています。

現在みんなで共有している、グローブ、バドミントンや卓球のラケットなど、かなり状態がひどくなってきています。

よければ、お宅に眠っている、使っていない、ご提供いただけるようなものを、頂けないでしょうか。

また、教研のスペース的な問題もあり、すべて頂きますということとはできないのですが、低学年の子が出来るような、ゲーム・パズルのようなものも、ご提供頂ければと思います。

教研、田村まで、ご連絡お待ちしております。

### 平谷子どもの家の件

残念なお知らせです。

『平谷村は長野県南部に位置し、人口660人。近年、観光開発で成果を上げ、財政的には潤いましたが、過疎化と少子化は克服できず、学年によっては複式学級になっています。』

そんな中で、村長の塚田明久さん(53)は、過疎化が進むこのままでは、複式学級になってしまう、「子ども一人一人の思いを大切にしたいきめの細かい教育をしたい」と厚生労働省に相談を持ちかけ、私たちNPO「教育研究所」が紹介された。村の人や、学校、地元企業の温かい支援を受け、来春には公設民営の寮(仮名「平谷こどもの家」)を開設する予定でした。(毎日 interactive-web 新聞より)

理想的な環境の整った、静かな長野県平谷村での新しい不登校支援事業は、昨年12月、村議会を通過し、補正予算もあり、平谷子どもの家の土地(三百五十坪位)も建物(九十坪)を村が購入し、内装の全面的な改修工事(全室フローリング、木の壁)明るい台所・食堂・贅沢なリビング・個室(8畳から12畳)などに変更する設計も終わ

り、いよいよ1月中旬から工事開始を予定していました。

村の学校の先生の研修を始め、3月5日(土)平谷村ホール、シンポ「ひきこもり・不登校対策と村おこし」と題し、コーディネイター：牟田武生、パネリスト：馳浩衆議院議員(前文部科学大臣政務官)、鈴木雄司(厚生労働省専門官)、長野県教育委員会担当者、塚田村長をお招きし開くことが決定していました。また、3月中旬、子ども達の受け入れ開始も決まっていました。

しかし、1月の村長選で、合併問題とともに、教育問題として、寮の建設の賛成(複式学級を回避できる)・反対(不登校の子ども達が村に来ることが不安)が争点になり、「平谷子ども寮」の推進者の塚田村長が僅差でまさかの敗退をしてしまいました。そして、全ての話が流れました。村には使われない建物が残りました。

先進的な考えと保守的な人との考えのギャップはどこでも大きいようです。まだまだ、不登校やひきこもりは理解されていないようです。

厚生労働省の後押しだったのに残念です。でも、次の機会頑張ります。懲りてなんかいないぞ! 過去32年間こんな事の連続でしたから、でも、開拓者は辛いね(本音、ポロリ)シンポのパネリストにボランティア来てくださる予定の先生方に御迷惑をおかけしました。

また、この寮に期待し、ひきこもりから脱出しようとしていた多くの不登校の子ども達、力がなくて御免なさい。休みも返上して頑張ったのに駄目でした。(牟田)

※毎日インタラクティブ

[http://www.mainichi-msn.co.jp/kurashi/kokoro/century/etc/prof\\_muta.html](http://www.mainichi-msn.co.jp/kurashi/kokoro/century/etc/prof_muta.html)

新連載! 『教育講演』実況中継

## 不登校、ひきこもりの子ども、家族への援助

(天理市第46回心を育てる教職員の集い講演)

講師：牟田 武生

-以前は学校恐怖症や登校拒否ともいった不登校。不登校の子どもが出だしたのは昭和二十年年代の後半。

四十年代から増加し、現在にまで至っている。牟田武生氏の講演は、四期に分けられる各時代の特徴を解説し、親と学校が協力して子どもに接するにはどうすべきなのかを説く。永年の教育コンサルタントの経験から教師や親へのアドバイスを頂いた。-

ただ今ご紹介いただきました、私、民間教育施設の教育研究所というところで教育コンサルタントをやっております牟田と申します。

私は大学院を出た時に、いわゆる教育相談、あるいはどちらかというとケースワークを含めた形で子どもたちと関わりたいと思っていたのですが、なかなか教育相談とか、ケースワークというのは、退職された校長先生がやられているケースが多くて、私たち若い者が入っていくことが出来ませんでした。今は少し門戸は開かれるようになりました。

その頃、自閉の子も多く現れてきているし、長欠児という子供もぼちぼちと現れていた。学校ではいわゆる落ちこぼしとか、落ちこぼれた子供というような表現もなされていた時代で、確かに競争社会の中で負者として落ちこぼれていくのかもしれないけれど、では、その落ちこぼれた人たち、もしかしたら、純粹であふれ出たのかもしれないけれど、そういった人たちを支援することってあるのかなど、ふと考えていたのです。そういう負者とか、競争社会で落ちこぼれてしまった人を何か支援することが本当は民主主義では必要なんじゃないかなど、こんな非常に高慢なことを考えて研究所を始めたわけです。

### 初めての不登校児との出会い

実際には不登校の子供と一番最初に関わったのは二十三の時。女房は亡くなったんですけど、中学校の先生をやっているんですけど、新任で入ったら、どうも入学式に来て、最初の一週間は来たけれど、それから来ない子がいる。自分が家庭訪問すればするほど亀さんみたいにどんどん引っ込んでいって会えないような状態でした。

その当時、今から三十五年くらい前、進級の問題や卒業の問題というのは実際、義務教育の問題の中でも大きな問題だったのです。このままいってしまうとこの子は進級が出来ないのではないかと。卒業できなくて十六歳になった段階、二回目の中学三年生をやった段階で除籍という扱いを受けているケースが横浜でも東京でも多かったのです。義務教育を除籍されてしまうと、子供の場合、中学校を卒業していないのですから高校にもなかなか行けません。就職することも出来ない。

そういった子供は例えば中卒検で就学猶予免除者のための中学卒業検定を受けさせようとするのですが、いわゆる就学猶予の免除を受けているわけでもないから、それを受けさせるにもちよっと書類上大変だというようなこともありまして、熱心な親であればあるほど、この子の将来を

考えて、とにかく何とか学校に行かせよう、あるいは先生が車でやって来て布団蒸しみたいな形で引きずり出して連れて行くというようなことが現実に行われていた。

女房も困ってしまって、そんなこと出来ないし、何とかならないかなということ、

「あなた、只本を読んで書き物をやっているだけじゃなくて、家庭教師みたいな形で行って見ないか」と言われて、断り切れないのです。こちらはヒモの生活ですから、どちらかという。ヒモが断り切れたら生命が無くなっちゃうし、お金のパイプがなくなっちゃうわけで、女房が稼いで僕は家事一般を全部やっているとということだったから、家事労働が認定されりゃそんなことはないのだけでも、そういう生活をしていました。それで行きました。

行ってみると総檜の立派な家で、日当たりの良い所にその子の部屋がある。でも私が行ったって会えるわけがないわけですよ。神様じゃないんだから。でも、成果なく帰るのは困るな、女房に怒られて家に入れてくれないんじゃないかと思ってたもので、しようがなく、兄弟がいたので、兄弟の家庭教師という形でその家に入り込んだわけです。

勉強は少し、三十分くらいやって、後一時間から一時間半はトランプやったりオセロをやったり、花札をやったりという形でワイワイワイワイ、子供が三人いましたけれども、盛り上がらせる。盛り上がらせて楽しく週一回とか二回行っていると、半年、九ヶ月くらい経ってソロソロってフスマが開いたんですね。「何をやっているんだ。毎週毎週、楽しそうに」って、その家に行ってから九ヶ月後くらい経っていたんですね。初めて会って話してみたんです。話をしてみるといっても「トランプをやらないか」と言いながら様子を見る。

よくその子を見てみると、私の今まで学んできたフロイトとかユングだとか、ロジャースの事例の中には出てこない人間だったんですね。どうしてもこれは精神疾患にも思えないし、うつ病にも思えないし、神経症にも思えないし、で、怠けでも非行怠学でもないわけだし、いったいこれはなんだろうなと思ったのが私の運の尽きでした。大失敗だった。三十二年間結局その仕事に付き合うことになりました。今でもその子とは付き合い合っているんです。

その子のお父さんは、その当時、ガソリンスタンドと自転車屋をやっていたのですが、その

子に技術的なことを覚えさせた方が良かったらうということで、技術畑に進んでいくことになりました。中学校は年間、百日くらいしか出席できなかったのだけど、高校へ行きたいと言った時に困ってしまいました。とにかく相模原につぶれそうな私立の学校がありまして（その頃はつぶれそうだったのですが、今はスポーツで結構強くなって住宅地が出来て、生徒も沢山集まっています）その校長先生に何とかねじ込んで入れてもらった。でも、高校というのは欠課時数の問題がありますので、あまり休んでいると単位が取れませんから、進級卒業できない。その子は高校生活では3年間で百日くらい休みましたが、卒業をして、そして技術畑ということで自動車の修理に進み、今は修理工場の社長をやっているんです。今でも僕は彼に全部整備をお願いして直してもらっているのです。そういった付き合いがずっと続いているのです。

#### 不登校の七十五%は対人不安・緊張不安

研究所の方は最初の頃は自閉症の人、それから長欠児でぼつぼつ休む子、それから非行の問題を抱えている親の人のカウンセリングというようなことを中心にやっていました。ところが、自閉症の場合も医学的な領域で検査が進んでいくと、「微細機能障害」という、いわゆる脳の機能障害の部分があるから、（現、関わりの中では私自身としては、今は考え方は違うのですけれども）その当時、関わりに限度がある医学的な領域ではなくて、別に成果を期待しているわけじゃないのですけども、自分で関わっていけば行くほど何とかうまくいったとき、その子自身の自己実現につながっていくようなことはないか。心理学と教育学と、どちらかという精神医学の中間的なもので、病気でないものというもの。教師というのはみんなそうですけれど、自分のやったことに成果が出てくると、とてもうれしいですよ。

#### 不登校の増加

それで、昭和四十年代の中頃から不登校の子供たちが増えてきて、その不登校の子供たちの支援をしていくという形に段々変わってきました。

現在は、不登校状態というのは基本的に年間三十日以上を病的、病気でなく、明確な理由が無く欠席の状態の続いている人なんですけれど、不登校状態の継続を見てくると、無気力の人が20.5%、不安などの情緒混乱型が26.1%、複合型、いろんなことの原因が明確でなくて決められないもの、これが25%、これらを合わせると75%近くいくわけです。年によって違うけれど、だい

たい 70 から 75%、この全体の四分の三の人たちというのは、どういう人かという、無気力で、不安などの情緒的な混乱を抱えているために対人不安、緊張や不安を覚える、またそういった症状を両方持っているような人が複合型で、基本的には不登校の子供たちの四分の三くらいの人たちがひきこもり傾向にある人たちです。

これが不登校の中心の存在と考えた方がいい。学校へ行かないでバイクを乗り回して遊んでいる方が楽しいとか、仲間とつるんで悪いことばかりやって学校に来ないという子に、つつい生徒指導の先生たちは目が行きがちで、これも不登校なんですけど、不登校の中核は不安の強いひきこもりの人です。

この人たちが全体の四分の三近くいるということをおまえて、この引きこもりのような状態を改善していかないと不登校の問題というのは解決しないぞということなんです。

そ次号へ続く)

今回は二万六千人の追跡調査（文部省委託調査）、自立化が孤立化に、今こそ旦那の協力が必要、などを掲載予定です。



### ☆講演会をご利用下さい☆

教研では年間を通じて不登校・ひきこもりの子どもを支援する保護者の方へ向け、講演会を開催しています。

最近の不登校・ひきこもりの子ども状態像を中心に、30年にわたる臨床現場、実践研究などから見えてきたことを、分かりやすくお話していきます。カウンセリングとは違い、客観的に自らのケースと照らし合わせて考える機会となればと思います。

3月までは無料開催しています。ぜひ、この機会をご利用下さい。

### 『不登校このままでは心配、この春動き出すために』

春は不登校の子ども達にとって動きはじめの大きなチャンスです。学期、年度の変わり目であるこの時期は、あえて登校刺激をしなくても自然と心の中に葛藤が起こる季節です。

しかし反面では非常にプレッシャーのかかる時でもあります。プレッシャーはエネルギーにもなり、重圧にもなるのです。

ところが、外部との接触を絶って、観念的な自己の世界にひきこもっている子ども達にとって、

それを自分の力だけでエネルギーに変えていくことは容易ではありません。“放っておく”“見守るだけ”ことだけでは光は見えてきません。

周りを見渡してみてください。今、ひきこもっている子どもへ少なからず働きかけることができるのは家族の絆だけなのですから。

### <講演会の会場&スケジュール>

受付：13時から

講演：13時30分～15時

グループカウンセリング：15時20分～16時30分

会場：ウィリング横浜12階127号室

参加費：無料（※第一部は俱進会助成金により開催。第2部は公的機関助成金にて開催。）

定員60名先着

詳しくはお問い合わせ下さい。

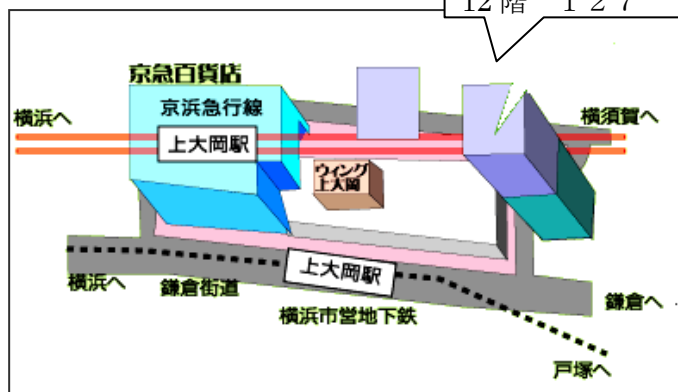
いずれの講演会も初めて参加される方でも分かるような形でお話を進めていきます。

### ☆講演会后、オープングループやっています☆

また、第二部として15時20分からグループカウンセリングも行っています。事前の申し込みは特に必要ありません。講演の中で疑問に思ったことや、もっと聞いてみたいこと、子どもの対応についての悩み事、お母さんの憂さ晴らし、なんでも結構ですのでご自由にご参加下さい。こちら参加は無料です。(公的助成を受け、開催します。)

※次回講演会は4月16日

ウィリング横浜  
12階 127



### ☆閉鎖型グループカウンセリングのお知らせ☆

“小・中・高校生の不登校を抱える親のための”

西村グループカウンセリング

“社会的引きこもりの子どもを抱える親のため”

牟田グループカウンセリング

05年度も随時開催予定。次回会報にてお知らせします。

### ☆スクールカウンセラーへのスーパーバイズ研修を開催しています☆

臨床事例を共有しながら、スーパーバイザー（牟田武生）がアドバイスをを行い、スクールカウンセラーの力量をアップしていくことを目的に開催しています。

研修の中では事例検討を行い、学校で行われる日常活動の臨床の中で、“どう対応して行けば良いのか、”“一人で判断しても良いのか”などの難しいケースや新たなケース（ネット依存や虐待）についてなど、難しい事例を出しあい、クライアントの立場を最大限に守りながら、参加者全員で討議をしながら検討を図っていきます。

これらの会を通して、多くの難しい事例を共有化し、客観化することによって、参加者の力量のアップや、事例の抱え込みによる、カウンセラーの主観的な判断を防ぐことが可能になります。

また、学校で行われる相談内容は、実際に子どもと一緒に動いて解決して行かなければならない教育福祉的なケースワーク的な内容も多くあります。しかし、スクールカウンセラーは教育福祉的なケースワークについての知識は縦割り行政の流れの影響で乏しい状況にあります。事例を通して学び、実践に即したカウンセラーや教育相談員を養成していきます。

日 程： 3月12日※4月以降はお問い合わせ下さい。

各土曜日の午後3時から5時まで

参加料： 一回2,000円

（※途中からの参加はできませんが、基本的に継続受講でお願いしています。）

場 所： NPO法人教育研究所

### ☆お母さんたちのミニ図書館のお知らせ☆

「毎月1回親の会でミニ図書館を開いています。不登校やひきこもりに関する本や心理の本などが300冊以上ありますので、利用していただければと思っています。

教育や心理以外の本も増えてきました。9月には図書の整理をして新しい本も入りましたのでお立ち寄りください。

また、毎月5~6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせていますので、気軽な気持ちで参加していただければいいなと思っています。会員の方ならどなたでも貸し出しを行っています。お待ちしております。予約の必要はありません。」

（卒業生の母より）



開催日： 4/23（土） AM10:30 ~  
※3月はお休みです。

### ☆地域子ども教室コミュニティクラブへ集まれ！☆

文部科学省では平成16年度から、家庭・地域・学校が一体となって取り組む「子ども居場所づくり新プラン」を実施しています。これは、全国の各地域で大人たちの協力を得ながら、放課後や休日に子どもたちがさまざまな学習活動やスポーツ・文化活動などに取り組める「居場所」をつくらう、という趣旨のものです。

教研でも、横浜の民間教育団体やNPOが集まった横浜市地域子ども教室コミュニティクラブ実行委員会に参加し、協力して文科省より委託を受け、教研もYCC港南として「子供の居場所/地域子ども教室」を実施することになりました。

横浜市の小中学生は実費のみの参加費で参加できます。（要申込）詳しくはお問い合わせ下さい。

### ○街角相談（無料）を開催しています。

YCC港南としての活動の中で、横浜市在住の小中学生の保護者の方に向けて「街角相談（無料）」を開催しています。ぜひ、ご利用下さい。

### 開催日：第2・第4火曜日の午後

（要予約です。詳しくはお問い合わせください。）

### ☆オープンプラスの卒業式のお知らせ☆

オープンプラスに通ってきている子達の中にもこの春卒業し、それぞれ新たな旅立ちを迎える子がいます。また、そのまま4月からのコモンルームに残る子もいます。この一年の節目に教研でも卒業、修了式を行います。特にかしこまった形ではないのですが、卒業するもの、それを送り出すもののエールの交換のようなものでしょうか。

何度出席しても、子どもたちの一年の成長を振り返ることができ、嬉しい思いで一杯になります。

卒業式の後にはバイキングでの交流会も予定しています。（予約制）興味のある方はご連絡下さい。

日 時： 3月19日（土） 午前10時～

場 所： ゆめおおおおかワイルド内

ウリウリ 横浜12階 127号室

### ☆ウェブ新聞わが子の悩みドットコム☆

牟田先生（NPO法人教育研究所理事長）の監修のもと、（株）教育新聞社（東京都台東区）が運営するウェブ新聞が開設されました。

## ＜このサイト開設のねらいと内容について＞

『子どもたちを取り巻く生活環境は、日々変わっています。教室ではあまり目立たなかった子どもがある日突然事件を起こし、“普通の子”としてメディアに登場するケースが増えています。もはや“わが子”も例外ではない時代です。

「わが子の悩みドットコム」では、インターネットゲームやインターネットが子どもに及ぼす悪影響など、事件とかかわりのあるキーワードから、問題の背景や子どもの心理状態に迫ります。

また、不登校、いじめ、LD・ADHD、学校安全など、依然として問題性の高い生徒指導・学校運営などのテーマも、新しい側面から取りあげ、親の方々にも分かりやすく、必要な時に繰り返し読んでももらえる内容を提供しています。

子どもの問題は、学力などの学習面から体の健康、友達関係まで幅が広く、そして相互に深く関係しています。「わが子の悩みドットコム」は、親の方々も不安に思うことなども随時キーワードに加えながら、子どもの視点から見えてくる諸問題を追究していきます。』ぜひご利用下さい。

(※ウェブ新聞わが子の悩みドットコムより)

<http://www.konayami.com/index.html>

## ☆お手伝いお願い致します☆

○今年も全国の公立・私立全日制高校約5000校および各都道府県教育委員会に新入学・転編入学に関するアンケートを発送します。

このアンケートは「不登校」から立ち直り、高校に進学したいという希望を持つ子ども達のために、教育研究所が毎年ボランティアで、行なっているものです。アンケート結果はオクムラ書店より、出版されます。

発送数が5000と大量なため、一日発送作業を行います。お時間がある方は、ぜひ、発送作業のお手伝いをお願いします。

作業日時： 3月24日(木)

作業開始： 午前10時より、※作業が終わり次第終了になります。

場 所： ウィリング横浜12階125号室  
(上大岡駅徒歩1分)

※6P講演会場の地図参照

昼食と交通費は支給されます。

ご連絡、お問い合わせは教研まで。

TEL: 045-848-3761 / mail: [contact@kyoken.org](mailto:contact@kyoken.org)

○『教師&専門家のための不登校問題研修会』  
ボランティアの切なるお願い

今年も夏の研修会の準備が始まりました。今年度はさらに研修を充実させ、大阪会場(3日間)、宿泊研修(埼玉・国立女性教育会館・3日間)、東京会場(5日間)という形で、行うことになりました。

つきましてはそれに伴い、全国の小・中・高校へのダイレクトメールの発送を行う予定です。今年も若干発送数が増えることになりそうです。

作業は簡単な封入作業です。なるべく多くの方にご協力をお願いできればと思っています。何とかお力添えいただきたく、心からお願い申し上げます。

尚、人数の把握と昼食の用意がありますので、恐れ入りますがお力添えいただける方がいらっしゃいましたら、事前に教研までご連絡下さい。また、交通費実費・昼食はこちらでご用意させていただきます。

作業日時： 4月26日(月)・27日(火)・28日(水)

時 間： 10時～17時

場 所： ウィリング横浜126号(※6P参照)  
※一日だけでも、ご都合のいい時間帯だけでも結構です。どうぞよろしくお願い致します。

☆特別特価で本の販売をしています☆

教研にご注文いただく形で2005年度“総ガイド高校新入学・転編入”を500円(定価2100円)で、“すぐに解決!子ども緊急事態Q&A”を1000円(定価1680円)でお送りしています。(送料は別で100円)詳しくはお問い合わせください。

## NPO会員継続手続きをお願いします。

05年度のNPO会員継続手続きは同封の郵便振替に必要事項をご記入頂き、5千円の会費をお振込み下さい。会費はNPOの活動維持費として使われます。できるだけ多くの方に教研の活動を理解頂き、こうした形の支援をいただければと思います。

よろしくお願い致します。

尚、05年度会員手続きが完了した方には振込用紙が入っていません。封筒宛名のところに05年度会員と書かれています。ご確認ください。



3月8日(火)	YCC港南・街角相談(無料)
3月10日(木)	西村グループカウンセリング
3月12日(土)	牟田グループカウンセリング スクールカウンセラーへのスーパーバイズ研修
3月18日(金)	ぐるめ会
3月19日(土)	教研卒業式・教研講演会
3月22日(火)	YCC港南・街角相談(無料)
3月24日(木)	高校受け入れアンケート発送日
3月22日(火)	教研春休み
4月11日(月)	教研コモンルーム始まり
4月16日(土)	教研講演会
4月23日(土)	ミニ図書の会
4月25日(月)	ぐるめ会
4月26日(火) ~27日(木)	『教師&専門家のための不登校問題研修会』DM発送作業

**★NPOの寄付口座のお知らせ★**

今までも寄付という形でみなさんにご支援頂いて来ました。NPO法人教研にも寄付口座ができました。頂いた寄付は教研の活動に役立てさせていただきます。これからもよろしくお願い致します。

寄付口座：横浜銀行 上永谷支店(普) 1442